

令和7年度版

表現の友

1

年

愛知教育文化振興会
三河教育研究会



原稿用紙の使い方

一 題は一行目の四番目のますから書き、学年・組・氏名は二行目に、本文は三行目から書きましょう。

二 各段落の始めは、必ず一字下げて書きましょう。

三 読みやすいように、（ ）（ ）（ ）をしっかりとつけましょう。

（ ）（ ）はそれぞれ一字に数え、ますの中の右上の方につけましょう。ただし、（ ）の後ろに（ ）がきたときは、（ ）と（ ）を同じますに入れます。

四 会話は、「 」の中に入れ、それぞれ一字に数えて、ますの中に入れます。また、行の最後のますに文字のあるときは、（ ）（ ）（ ）も、同じ最後のますに入れ、行の最初のますには、（ ）（ ）（ ）をつけないようにしましょう。

五 推敲するときは、左の記号を用いて直しましょう。

推敲の仕方とポイント

一 推敲するときは、次のポイントを確認してみましょう。

- ・誤字脱字はないか。 ・主語と述語の関係は正しいか。 ・句読点は適当か。
- ・常体、敬体が統一されているか。 ・学習した漢字が使われているか。
- ・一文の文字数が百字以上の長すぎるものはないか。
- ・体験やそのときの様子や気持ちがわかりやすく書けているか。
- ・構成はどうか。順番を入れ替えた方がよいところはないか。
- ・書き出し、山場（クライマックス）は効果的に表現されているか。

二 推敲するときは、左の記号を用いて直しましょう。

訂正する 表現がともうまいところ

感動したところ

意味がよくわからないところ

語句（言葉）が適当でないところ

バレエ部の楽しさ
イ年ろ組 山下 一郎
中学校に入学して少したったころ、教室の
戸を勢いよく空けながら、守君が聞きました。
「山下君、もう何部に入るかきめた。」
ぼくは守君の方を振り返って、
「バレエ部に決めた。おもしろそうだからね。」
と答えた。部活動見学会のとき、楽しそうに
やっていたのが印象的だったからです。そし
てぼくは、その次の日に入部しました。初め
のうちは親しい人もいないし、つらい事が多
かったので後悔しました。このごろは、でも
すっかりやろうと考えています。守君も
自分で決めた部なのですから……。守君も

そして、 下端の横線まで下げる

ました。 上端の横線まで上げる

しました。 つづける

した。ぼくは 中に入れる

だつて少し 中に入れる

美くしい 消す

このような人 消す

運動会 訂正する

訂正する

入れ替える

行を変える

表現がうまいところ

表現がともうまいところ

感動したところ

意味がよくわからないところ

語句（言葉）が適当でないところ

表現の友 1年

も く じ

一 ささまざまな表現を楽しもう

○ 情報を整理して説明しよう 説明文 (教 P.54) 2

○ 項目を立てて書こう 案内文 (教 P.116) 4

○ 根拠を明確にして書こう レポート (教 P.140) 5

○ 構成や描写を工夫して書こう 随筆 (教 P.228) 8

二 生き方を見つめよう

― 体験をとおして自分を見つめたことを
いきいきと書こう―

10

○ 読書感想文を書こう 読書感想文 10

○ 読書感想文を練り上げよう 読書感想文 15

○ 詩を書こう 詩 16

○ 生活作文を書こう 生活作文 19

付録 記述問題に挑戦しよう

26



※(教)……光村図書 教科書対応ページ

2年

一 ささまざまな表現を楽しもう

○ 情報を整理して伝えよう ガイドブック (教 P.54) 2

○ 表現を工夫して書こう 手紙・電子メール (教 P.110) 4

○ 適切な根拠を選んで書こう 意見文 (教 P.130) 7

二 生き方を見つめよう

― 体験をとおして自分を見つめたことを
いきいきと書こう―

10

○ 読書感想文を書こう 読書感想文 10

○ 読書感想文を練り上げよう 読書感想文 15

○ 詩を書こう 詩 16

○ 生活作文を書こう 生活作文 19

付録 記述問題に挑戦しよう

26

一 自分の思いを伝える方法を身につけよう

○ 論理の展開を意識して書こう 小論文 (教 P.54) 2

○ 俳句の創作教室 俳句 (教 P.130) 5

○ 考えを効果的に伝えよう 批評文 (教 P.130) 7

二 生き方を見つめよう

― 体験をとおして自分を見つめたことを
いきいきと書こう―

10

○ 読書感想文を書こう 読書感想文 10

○ 読書感想文を練り上げよう 読書感想文 15

○ 詩を書こう 詩 16

○ 生活作文を書こう 生活作文 19

付録 記述問題に挑戦しよう

26

3年

さまざまな表現を楽しもう

― 情報を整理して説明しよう ― (教 P.54)

発見したことをわかりやすく書く

日々の生活においては、わかりやすく説明しなくてはいけないことがたくさんあります。伝えたい内容を相手に理解してもらうためには、何に気をつければよいのでしょうか。

ここでは、情報を集め、整理してわかりやすく説明する方法を学習しましょう。

一 情報を集め、整理しよう

取り上げる題材（道具）を決めるために候補を書き出しましょう。

題材
・
・
・

二 伝える目的や相手によって情報を取捨選択しよう

題材が決まったら、何のために、だれに向けて書く文章なのかを意識して情報を集めましょう。目的を書き込み、その目的に応じて、必要な情報を選び、（ ）に○をつけましょう。

目的

【必要な情報】

- | | |
|--------|---------|
| () 名前 | () 機能 |
| () 構造 | () 思い出 |

三 気づいたことを書き出そう (教 P.56)

同じ種類の事柄を囲んだり、関係する事柄を矢印でつないだりして、情報を整理しましょう。

--

四 情報を選び、構成を考えよう (教 P.56)

集めた情報を、観点ごとにまとめたり、共通点を見つけて分類したりしましょう。また、観点をどのような順序で伝えるとわかりやすいか考えましょう。

例
発見したこと 構造や仕組み 名前 主な機能



五 構成メモを作ろう (教 P.57)

考えた構成を基に、構成メモを作りましょう。

タイトル

おわり	な か	はじめ
まとめ ●○○は、…と…にある。	発見したこと① ●手に取ってみると、…。 ●…のおかげで、…できる。 ●…だから、…できる。 発見したこと② ●もし…ならば、…だろう。 ●もし…なければ、…だろう。 ●○○には、…という役割がある。 ●○○は、…という役割を果たしている。	タイトル 基本的な情報 名前・主な機能(定義) ●○○は、…ための道具だ。 構造や仕組み ●○○と□□から成る。 ●…という仕組みだ。



―項目を立てて書く― (教 P116)

案内文を書く

案内文とは、催し物や会合などを知らせたり、あるいは招待したりするために出す文章です。皆さんも学校から出された「お知らせ」などの案内文を読む機会がたくさんありますね。相手に伝わりやすい案内文を書くために、構成や書き方を身につけましょう。

■案内文を書こう (教 P117 参照)

① 受取人

② 出す日付

③ 差出人

④ 行事・イベント名

⑤ 挨拶

⑥ 具体的な案内の内容

記

1 日時

2 場所

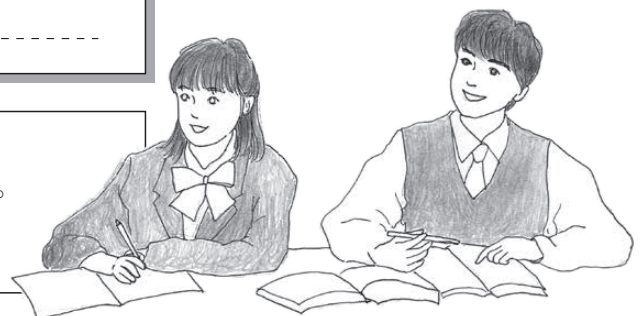
3 当日の流れ

4 その他

地図やイラスト

【紙面構成の工夫】

- ・地図やイラストなどを使って、視覚的に示すとわかりやすい。
- ・行事やイベント名は、少し大きい文字で書くとよい。
- ・挨拶は、案内する相手に合った表現を考える。



― 根拠を明確にして書くこと ―

資料を引用して報告する

報告の文章を書くときは、どんなことに気をつけるとよいのでしょうか。身近なテーマについての統計資料などを引用し、調べたことや考えたことをわかりやすく伝えるレポートを書いてみましょう。

■ 課題を決め、調査を行う

中学生のあなたは、普段どのようなことを考え、どのようなことに興味をもっているでしょうか。また、「他の中学生はどのようなのだろう」と感じたことはないでしょうか。次の例や教科書 P 144・145 を参考に、中学生に調査したいことを考え、課題を決めましょう。

【例】 将来について（就職や結婚に対する考え方など）
生活について（運動時間・スクリーンタイムなど）
興味について（好きな○○・気になる時事など）

（一） 課題を決めよう
中学生について調査したいことをいくつか挙げ、決定したものに丸をつけましょう。

決定	調査したいこと

（二） 調査項目や調査方法を決めよう

- どのような項目を調べれば自分の考えを支えるための根拠となりそうかを考える。
- 情報を集めるのに適した調査方法を考える。

調査方法の例

【全国の中学生の情報】 事典 広報誌 統計資料 ウェブサイト
【自分のクラスの意見】 アンケート インタビュー
【専門家の見解】 新聞 書籍 雑誌 テレビ番組

※情報は、複数の情報源で調べ、確かな情報を選ぶようにする。
※引用するときは、教科書 P 82・141・143 を参考に、きまりを守る。

【例】 課題…中学生のスマートフォン・インターネットの用途

調査項目 ①…全国の中学一年生のスマートフォン・インターネットの利用内容 ↓ 統計資料

②…自分のクラスのスマートフォン・インターネットの利用内容 ↓ アンケート

③…専門家の見解 ↓ 新聞 書籍 テレビ番組

調査項目	調査方法
①	
②	
③	



○構成メモ

■ 集めた情報を引用して構成メモを作成しよう

ここでは、一枚の構成メモにまとめてみましょう。

1. 調査の目的ときっかけ

2. 調査の方法

3. 調査の結果

4. 考察

5. 参考文献



レポートにまとめよう

レポートは、調べたことを正確にわかりやすく伝えるための報告書です。用紙はレポート用紙や原稿用紙を使うとよいでしょう。

○レポートの例

中学生のスマートフォン・インターネットの用途

題名・日付・報告者
 〇〇年〇月〇日
 ・題名は内容を明確に表すものを考える。 1年〇組 〇〇 〇〇

1. 調査の目的ときっかけ

私は、中学生がどのような用途でスマートフォンやインターネットを使っているのか疑問に思い、調査した。調査しようと思ったきっかけは、最近買ってもらったスマートフォンでゲームばかりしてしまうことに問題を感じたためである。有意義な使い方をしている人がいれば、参考にしたい。

2. 調査の方法

①統計資料で、全国の中学生1年生のスマートフォン・インターネットの利用内容を調べた。
 ②1年A組の35名にアンケートを行い、スマートフォン・インターネットをどのようなことに使う時間がいちばん長いのかを調べた。

3. 調査の結果

①全国の中学1年生のスマートフォン・インターネットの利用内容（資料1）

1位 動画視聴 79.8%

「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」による

②アンケート調査の結果

1年A組のスマートフォン・インターネットの利用内容・時間についてのアンケート結果（資料2）

1位 動画視聴 14人（40%）

4. 考察

全国の中学1年生のスマートフォン・インターネットの利用内容の割合がいちばん高いのは「動画視聴」であった。1年A組もいちばん利用時間の長い用途は「動画視聴」となり、全体の40%を占めていた。

いっぽう、

5. 参考文献

・「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」内閣府 令和2年3月 令和7年10月2日閲覧 <https://www.>
 ・「中学生の・・・」 〇〇〇〇著 〇〇出版 〇〇年刊行（P.〇〇）

(資料1) インターネット利用内容

(資料2) 利用時間がいちばん長い用途

1. 課題

・調べようと思ったきっかけとともに課題を示す。

2. 調査の方法

・どのような方法で、何を調べたのかを書く。
 ・番号などを付けて示すとよい。

3. 調査の結果

・調査からわかった事実をまとめる。
 ・小見出しを付ける。
 ・アンケート結果などは、表やグラフで示すと効果的である。
 ・数値や名称などは正確に示す。

4. 考察

・調査に基づいて分析したことや、考えたこと、感想、今後の課題などを書く。

5. 参考文献

・書籍は、書名・著者名・発行所名・発行年など、インターネット上の資料であれば、調べたウェブサイトのアドレスを示す。

○作ったレポートを振り返り、できたことに丸をつけましょう

チェック	観 点
	それぞれの項目に、ふさわしい内容を書いているか。
	「調査の目的」と「方法」や「考察」の内容は対応しているか。
	資料を効果的に引用しているか。 ・調べた内容から、根拠として図表や文章を引用する。 ・自分の考えを補強するために、専門家の知見などを引用する。
	「参考文献」は、正確に示されているか。

―構成や描写を工夫して書くよう― (教P28)

体験を基に随筆を書く

過去の体験を振り返り、それを今の自分の価値観で捉え直し、その体験の意味を考えてみましょう。また、そのときの情景や心情を表現するのにふさわしい語句を選んでみましょう。そして、書く内容の中心が明確になるように、構成や描写を考えて随筆を書いてみましょう。

■ 随筆とは

随筆とは、自分が見たことや聞いたこと、体験したこと、感想などを、エピソード（ある人やある物事についてのおもしろく、短い話）などを用いて書いた文章のことです。

■ 随筆を書くための手順とポイント一覧

次の一覧を参考に、順を追って随筆を書きあげてみましょう。

① 随筆の題材を選ぶ

- ・身近な体験を振り返り、詳しく思い出してみよう。
- ・いくつか候補をあげ、一つ選ぼう。

② 具体的な材料を書き出す

- ・事実や体験、エピソードを書き出そう。
- ・体験の意味や価値を捉え直してみよう。

③ 構成を考える

- ・読み手に状況がイメージできるように構成を考えてみよう。

④ 随筆を書く

- ・書き出しや結びを工夫してみよう。
- ・出来事や言葉を吟味してみよう。
- ・比喩などの表現技法を効果的に使ってみよう。
- ・いきいきとした描写を選んでみよう。
- ・より適切な表現はないか推敲（すいこう）してみよう。

■ 題材を選ぶ

随筆に取り上げたい体験を思い出し、一つ選びましょう。

○ 体験から見つける

- ・忘れられない言葉・風景・体験
(例)：祖母の手紙にあった一言
- ・〇〇に気づいた・ものの見方が変わった・成長を感じた体験
(例)：練習の大切さに気づいた試合
- ・自分にとっては意味をもつ・心揺さぶられた体験
(例)：声を合わせる楽しさを感じた音楽発表会

○ テーマから見つける

- ・私にとって〇〇とはうだ。
- (例)：優しさとはうだ。サツカーとはうだ。親友とはうだ。
- ・〇〇に気づいたのはあのときだ。
- (例)：伝えることの難しさ、時間の大切さ

今回取り上げる題材

■ 具体的な材料を書き出し、整理しよう

題材が決まったら、取り上げるエピソードについて、次の観点で材料を集め、そのときの思いや体験に関する事実、自分にとっての意味を書き出し、整理してみましょう。

周りの様子・情景	会話や言葉	ふりかへ	いつ	事実、エピソード (どんな体験をしたのか)	体験の意味(自分にとって、 どんな意味があったか)

五 構成を考えよう (教 P.229)

④で書き出した材料を基に、構成を考えてみましょう。

伝えたいこと							導入 (簡単な説明)		事実	当時の思い	現在の視点
意味づけ		具体的な体験談									
									・いつ ・どこで ・会話 ・五感 ・情景 など	その体験の最中に思っていたこと・感じていたこと	・捉え直すことで気づいた、体験の意味や価値 ・新たに考えたこと

六 書き出しを工夫しよう

印象的な書き出しになるよう、次の観点で考えてみましょう。

- ① わく組みから書き出す
 - ・ 時間や場所
あれは、五、六歳の頃。
 - ・ 人物や言葉の紹介
「〇〇」と手紙にあった。
 - ・ 出来事の背景やの説明
夏になると、思い出す。
など
- ② 会話・心の中から書き出す
 - ・ 会話
「ナイスシュートー」体育館に先輩の音が響きわたる。
 - ・ 心の中の声（独白）
「ここで失敗したらだめだ。」
私は極度に緊張していた。
など
- ③ 描写から書き出す
 - ・ 情景、行動、心情描写
雨はやみそうになかった。
 - ・ 五感による感覚描写
キャンプ場に吹きわたる朝の風は、ひんやりとして心地いい。
など
- ④ 自分の考えから書き出す
 - ・ 問題の投げかけ
「自分らしさ」とは何だろう。
 - ・ 随筆のテーマ
あの頃の私に、伝えることの難しさを教えたのは、〇〇だった。
など

二 生き方を見つめよう

―体験をとおして自分を見つめたことを

いきいきと書こう―

学習のめあて

本に書かれた内容を理解し、日常生活をもとにした自分の思いや考えをもち、根拠を明確にして書こう。

―読書感想文を書こう―

一 本の選び方の「こつ」

読書感想文を書くために最も大切なことは、自分にとって価値ある本を選ぶことです。自分という人間を見つめ直すきっかけとなったり、生き方を考えさせられたりする価値ある本を選びましょう。

著者	書名
出版社	

二 メモを取りながら読み取ろう

作品をとおして作者が言いたかったこと(主題)をまず考えましょう。疑問に思うところや理解できないところは、繰り返し読みましょう。

内容を読み取る手助けとしてメモを取るとよいでしょう。心に残った部分や印象的だった部分に付箋紙を貼っていきます。読み終わったら左ページの「メモを取る視点」を参考にメモを取りましょう。付箋紙にメモを取ると、あとで構成を考えるときに並べ替えることができ、便利です。

三 材料を選ぼう

感想文を書いていくために、取り終わったメモを整理します。特に中心になる感想を決め、それに関わる形で使えるものを選んでいきます。自分の体験と関わりのあるものを中心に据えるとよいでしょう。さらに、その内容と関わりのある自分の体験を書き出していきます。

四 構成を考えよう

書くための材料が集まったら、それをどのように並べて感想文を書いていくかを考えましょう。自分の考えをわかりやすく伝えるためにも、読み手をひきつけるためにも、どのような順番で書いていくのかは重要です。

○構成例

はじめ	なか1	なか2	まとめ	むすび
● 本の中の最も印象に残った場面やせりふ、キーワード ● 本を読んだときの驚きや読み終わったあとの自分の変化 ● 登場人物の呼びかけやメッセージ	● 登場人物の生き方、考え方と自分との共通点 ● 作品と関わる自分の生活の様子や経験 ● 選んだ本と出会う前の自分の考え方や生活	● 登場人物のせりふや行動に対する自分の考え ● テーマについて考えたこと ● 共感できること、できないこと	● 登場人物と自分自身の生き方・考え方の共通点 ● 登場人物と自分自身の生き方・考え方の相違点とその理由	● 自分の心の成長や生き方についての考え ● 今後の自分の生活に役立てたいこと

(一) 本の中の印象的な場面やせりふを、二重線の四角に書き出そう。

※付箋紙を使えば、P14で構成を考えるときにそのまま貼り替えて使えます。

--	--	--	--

--	--	--	--

○メモを取る視点

- ①心を揺さぶられた言葉や感動したこと
- ②疑問に思ったこと、批判したいこと
- ③登場人物や著者、テーマについて考えたこと
- ④自分の周囲の社会や生活に関わりのあること



(二) 本の登場人物の体験と似たあなた自身の体験を、四角の中に思い出して書いてみよう。

--	--	--	--

○読書をきっかけに、自分の体験を見つめ直そう

- ・作品中の出来事や登場人物の行動と関わりのある自分の体験を積極的に書いていきましょう。
- ・「自分の考え、行動」など、自分自身と作品の関わりを、自分の言葉で書きましょう。



僕を生きる、人と生きる

岡崎市立岩津中学校一年

朝岡俊亮

キーフレーズ

一〇五度とは、人と人が互いに寄りかかり合う角度。帯に書かれた言葉にひかれ、僕は本を手にとった。一気に読み進めて、本を閉じると、目の前に宇宙のように広く、果てしなく続く世界が見えたような気がした。将来の夢、夢に向かうまでの道のり。今まで考えたことがなかった言葉たちが、頭の中をめぐった。

真は、僕より二つ年上の中学三年生だ。おじいさんが椅子職人だったことも影響してか、椅子に興味をもち、将来は椅子のデザイナーになりたいと考えていた。そして、夢を現実のものに引き寄せるべく、第一歩としてデザインコンペに挑戦する。しっかりとした夢をもち、それに向かって突き進もうとしている真の姿は、とてもかっこよく見えた。僕はだろうか。正直なところ、まだ明確な夢をもつことができていない。本を読むのが好きだから、小説家になれたらおもしろそうとか、図形や数学が好きだから、建築家もいかなとか、そのぐらいだ。中学生になってから、毎日の課題が格段に増えた。机の上で問題集やノートを開きながら、どうしても量が多いのだろう、何の意味があるのだろうと思うことが多くなった。先生や親から言われているし、頭では勉強が大切だということは、分かっているつもりだ。でも気が付けば、毎日目の前にある課題に追われるだけで精一杯の自分がいる。

真は、椅子のデザイナーになることを父から認められなかったが、決して自分の夢を投げ出さない強い意志をもち続けた。真の父は、友人のクリエイターが年をとってからリストラされたことや、何かを創り出す仕事を続けていく苦しさについて話し、厳しく反対した。僕は真の父の言葉にも一理あると思った。クリエイターより、サラリーマンの方が生活は安定するからだ。一方で情熱をもって取り組みやる気なく、努力しなければつまらない生き方になるだろう。逆にクリエイターとして努力できれば、成果は上がるのではないだろうか。とはいっても、好きなことを一生の仕事にすることが難しいのは想像がつく。父はどうなのだろう。僕は、最も身近な存在である父に聞いてみることにした。

すると家では、仕事から帰るとくつろいでいることの多い父の姿から、想像できない答えが返ってき

はじめ

- ・最も印象に残った場面やせりふ、キーフレーズ
- ・読んだときの自分の心の動き
- ・登場人物の呼びかけやメッセージ
- ・といった内容を書いていきます。

この作文では、はじめに帯に書かれた言葉をキーフレーズとして述べています。

作品を読んで感じたこと

なか1

- ・登場人物の生き方、考え方と自分との共通点
- ・作品と関わる自分の生活の様子や経験
- ・選んだ本と出会う前の自分の考え方や生活
- ・といった内容を書いていきます。

中心人物と自身を比較して気づいたこと

なか2

- ・登場人物のせりふや行動に対する自分の考え
- ・テーマについて考えたこと
- ・共感できること、できないこと
- ・といった内容を書いていきます。

登場人物の言動について考え、行動したこと

た。父は小学生の頃から星が好きで、天文学が勉強できる大学を選んで進学した。天体物理学という分野で大学院まで進み、JAXAの人たちと一緒に、人工衛星を使って、星の最期について、研究をしていたそうだ。真と同じように自分の好きなことを追求していた頃があったことに驚いた。

「もったいないよ。どうしてそのまま研究を続けなかったの。」

と尋ねると、父は、真の父が言うのと同じように、研究を仕事として続けていくのはとても難しかったことを語ってくれた。だが、夢をあきらめて仕方なく別の職業に就いたわけではなかった。父はその後、小学校、中学校の講師を経て、高校で物理学を教える教員になった。天文部の顧問もしている。全部が好きなことではなくても、努力したことは自分の未来に少しずつつながってゆくのだ。そんな希望の光が僕の心を明るく照らした。

共通点

僕はまだ中学一年生だ。しかし二年後、真と同じ中学三年生になったときに、真のようにはつきりとした夢をもった人になりたい。そして自分の夢につながる仕事に就けるようにしたい。そう考えると、重くのしかかってくる勉強も、自分の進みたい道を選ぶために必要なことだと思えるようになった。

最後に、忘れてはならないのが、僕がこの本と出会うきっかけとなった「人と人々が寄りかかり合う」という言葉。椅子のコンペに自分勝手に突き進もうとした真に、

「人間なんてのは、だれだってだれかに寄りかかって生きてんだよ。」 **キーフレーズ**

とおじいさんは言う。真がコンペに参加できたのは、共に頑張った友達、梨々の存在が大きい。真は、おじいさんの言葉で、一人で直立しているかのごとく振る舞っていた自分を省みることができた。手助けしてくれた工場の人たちがいることにも気付いた。僕は今、父や母、身の回りのことを気にかけてく

れる祖母に大きく寄りかかって過ごしている。僕をいつも笑顔にしてくれる友達、先生もいる。僕も支えてくれる人のことを忘れず、大切にしていきたいと思う。

この本と出会い、父と語ったことで自分の生き方について考えることができた。僕はこの先、僕の人

生を生きるために苦しいことにも立ち向かっていかなければならない。しかし、自分一人で生きているとおごらず、時には僕が周りの人の支えになって前を向いて歩んでいきたい。座り心地のよい椅子のよう

うにちようどよいところを探しながら。

佐藤まどか「二〇五度」(あすなろ書店)

『天空』第十八号 愛知県知事賞 課題読書の部

まとめ

- 登場人物と自分自身の生き方・考え方の共通点とその理由
 - 登場人物と自分自身の生き方・考え方の相違点とその理由
- といった内容を書いていきます。

作品と自身の共通点

はじめで触れたキーフレーズとの関連

おすび

- 自分の心の成長や生き方についての考え
 - 今後の自分の生活に役立てたいこと
- といった内容を書いていきます。

今後の自分にどう生かしていくか



※「なか1」「なか2」には、P11で書いた付箋紙をそのまま貼ることができます。

書く
事柄とその順序



※下のQRコードを読み取ると、ワークシートを入手できます。



ポイント

- 最も印象に残ったせりふ。
- 自分の驚きや心の変化。
- 登場人物へのメッセージ。など

自分の「生活体験」を書きます

●どんな体験でもよいわけではありません。「自分の読んだ本と関連した体験」を見つけます。そして自分の生活を振り返り、似たような体験を書きます。

- 全く同じ体験である必要はありません。

● 選んだ本と出会う前の自分の考え方や生活を書くことが大切です。

あなたの「読書体験」を書きます

● 読んだ本の魅力を書きます。

- ・心に残った登場人物のせりふや行動などを引用しながら、本のテーマについて、自分なりの解釈や感想を書きましよう。

- 特に次の点に注意しましょう。

- ① 主人公の心を大きく変える事件
- ② 主人公の心を揺さぶったせりふ
- ③ 主人公の成長につながる人物
- ④ 主人公がこだわる人・物・行動

- 登場人物と自分自身の生き方や考え方の共通点を見つめます。
- 本を読んだことで、自分自身の「心の成長」にどうつながったかを書きます。

● 本を読んだことで得た「心の成長」を、今後の自分の生活にどう生かしていくかを書きます。



読書感想文を練り上げよう

書き出し方の「つつ」

書き出しを工夫してみよう。いくつか例をあげるので、参考にしてください。

印象的だった言葉の引用から

「このままでいい。見守ろう。やつと旦那さんに会えるんだ。」
末期の胆のう癌の安曇さんが危篤のとき、主治医の栗原一止はこう言った。

話の舞台の説明から

現在、世界でまだ戦争が起こっている地域がある。それらの中には互いの価値観の違いや宗教・人種の違いによる差別や偏見が原因のものもある。

読中や読後の感想の一言から

人と本当にわかり合うとは、どういう事だろう。真の友達ってどんな関係だろう。果南と透子の二人の姿を追いつながら、私はずっとそのことを考えていた。

主人公の描写や言動の引用から

コナーは死期が近い母を持ち、そのことで周囲から特別扱いされていた。周りから孤立し、いじめられてさえた。

本の内容と重なる家族の話から

今年僕の祖母がなくなった。祖母はまさに戦争時代のだ真ん中を生きた人で、とてもたくましい寅年の蠍座の女の人だった。祖母はよく戦時中の話をしてくれた。

本の登場人物や読者への呼びかけから

「宇宙」という場所に一体何人の人が夢を思い描くでしょうか。きっかけは本当にささいなことでした。

気持ちや感想を表現する「つつ」

気持ちや感想の表現を工夫すると、印象が変わり、あなたらしさが表れます。自分の感想を表すのに、ぴったりの表現を考えましょう。

1 より具体的に書く

(例) おもしろかったです。 ↓ 思わず笑い出していました。
(例) 感動しました。 ↓ 気づくと涙がこぼれていました。

2 たとえの表現を使って書く

(例) 悲しくなりました。 ↓ 目の前が真っ暗になりました。
(例) 緊張しました。 ↓ 石のように体が動きませんでした。

3 慣用句を使って書く

(例) 驚きました。 ↓ 思わず息をのみました。
(例) 感動しました。 ↓ 心をうばわれてしまいました。

感想文にしたい表現を探してみよう。



おもしろい

はらはら どきどき わくわく

笑わずにはいられない

思わずふき出してしまう

ゲラゲラ笑う 腹がよじれる

感動する

心を動かされる

ため息がでる 胸が熱くなる

胸がいつぱいになる

胸に刻まれる 心をうばわれる

悲しい

涙が止まらない

胸をえぐられる 心が痛む

身を切られる やるせない

胸が苦しい せつない

うれしい

うきうき 心がはずむ

胸が高鳴る にやにやする

自然に笑みがこぼれる

ほっとする

一番の宿命

豊田市立足助中学校一年 安倍伊吹

エピソード1
① 中学校に入学すれば
僕のほかに

「あ」から始まる名字の人が
何人もいるだろう
ついに来る

倒置
一番の呪縛からの解放
「はい、一番の人から。」
もうこの言葉に
悩まされることはない

エピソード2
② 入学式

僕の淡い期待は
すぐ打ち砕かれた
一年B組
一番上に僕の名前
十年目の一番は
あきらめのため息で始まった

エピソード2
③ はい来た
毎年恒例の自己紹介
こいつがいちばん厄介だ
僕より後ろのやつはいい
考える時間がある
名簿の最後の方のやつには
一生分らないだろう
毎年背負う この緊張感

結局
おもしろいことも言えず
無難にこなす癖がつく

エピソード3
④ 忘れもしない
入園式
右も左も分からない
先頭に並ばされ
訳も分からず入場
いきなり名前を呼ばれ
みんなの注目を浴びながら
とにかく返事
初めてのことを
一番にやらされる恐怖
今思えば
不公平じゃないか
名字が「あ」で始まる者の宿命
名簿番号一番
僕がこのプレッシャーと
戦ってきたことは
きつと誰も知らない

時間の経過で連を構成

エピソード4
⑤ 夏休みに入った
隣でばたばた
部屋を片付ける姉
これが高校の教科書か
何気に名前の欄を見る
そこにはでかでかと
一年一組一番

⑥ 僕の苦悩は
いったいいつまで続くのか

↑キーワード 『みかわの子』 第57号

P 16の【例】を参考に、表にまとめてみましょう。
上段やP 18に生徒作品が掲載してあります。参考にしてください。

テーマ	象徴	時間	出来事・考え	キーワード

僕の部屋の宝物

岡崎市立竜海中学校一年

野田 一翔

① 今日僕は

自立への一歩を踏み出す

リビングから二階の僕の部屋へ

中学生にふさわしい

新しい僕の世界へ

移動するのだ

② 物置きと化していた僕の部屋

旅行のスーツケース

季節外れのファンヒーター

快適な勉強部屋にするには

余分な物のない

きれいな部屋にしなければならない

いけないものは

どんな部屋の外へ出す

これで完璧だ

③ しかし部屋のクローゼットを開け

僕は絶句した

百台を超すミニカーや電車のおもちゃ

見覚えのあるバトカーの絵本

初めて賞をもらった紙粘土の貯金箱

数え切れないほどのシールやバッジ

ため息をついてガラクタを手に取り

ごみ袋に入れようとしたその時

乗り物が大好きだった幼い僕

僕のお気に入りの絵本を読む

母の優しい声

紙粘土を僕と一緒にこねる

父の大きな手

スイミングのバッグには

誇らしげに並ぶ合格バッジ

あたたかい思い出が

僕の心からあふれ出した

でも次の瞬間目に入ったのが

セロテープで巻かれて

ボロボロになったファイル

中にはカードゲームのカード

一瞬にして苦い思い出がよみがえる

小学二年生の時

母に内緒で近所の仲間と出かけた

四キロメートル離れた

ショッピングモール

いつのまにか本降りになった帰り道

ファイルを抱えて雨に打たれ

ずぶ濡れになって急ぐ僕と

雨に濡れてボロボロになってしまった

カードファイル

取り上げられて、こっぴどく叱られて

絶対に返してもらえないと覚悟したのに

翌朝目覚めると

きれいに補修されて置いてあった

ふと目を見ると見える

大きな壁のへこみ

小学四年生の時

学級委員の仕事がうまくいかず

悩んでもやもやして

思いきり壁に八つ当たりした

空手を習っていた僕のこぶしは

壁を大きくへこませた

絶対に叱られると思ったのに

父は僕の話を黙って聞いてくれて

リーダーとしての自分の経験を

静かに語ってくれた

僕は泣きながらあやまって

学級委員の仕事

最後までやりとげられた

僕がえのない宝物

壁の傷は

僕の成長の軌跡

家族で刻んできた年輪

これから先

僕はこの部屋に

いろいろな悩みを持ち込み

悩み 苦しみ 決断していくだろう

大声で笑い転げるときもあるだろう

悔し涙を流すときもあるだろう

そのどんなときも

宝物に込められた思い出は

僕を支えてくれるに違いない

僕はこの部屋で

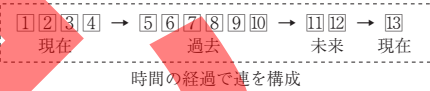
力いっぱい

これからの僕を生きていく

僕は宝物を

そっと元の位置へ戻した

『みかわの子』第59号



(二) 詩を作ろう

① (一)の④「エピソード」を一つの「連」にまとめてみましょう。もし、一つの連でまとめるには長いと感じるときは、二つ、三つの連に分けましょう。最初の「状況設定」や、最後の「メッセージ」はなくてもかまいません。原稿用紙に書く前に、詩の構成を考えておきましょう。

状況設定	エピソード1	エピソード2	エピソード3	考察 「感じたこと」	メッセージ

② 最後の仕上げです。声に出して読んでみましょう。もし、言いにくかったり、つかえたりするところがあれば、別の言葉に言い換えてみましょう。友達に読んでもらうのもよい方法です。

— 生活作文を書こう —

中学校生活の中で、今までと違う自分の姿を見つけたたり、気がついたことはありませんか。周りの人々とのふれあいの中で、あるいは、家庭生活や社会の中でのいろいろな体験をおして、驚き・不安・喜び・期待などを感じたことがきっとあるでしょう。

自分の生活を振り返り、それを作文に書くことは、たいへん意義深いことです。なにげない日常生活の中で、自分自身の心の変化を見つめることが大切です。それを文章に綴ることによって、一步一步、中学生としての自覚、ひいては自分の生き方を見つける姿勢が身につけていくことになるのです。

■ 題材を見つけよう

いつもの生活の中から、心に残った出来事を思い出してみましょう。

○ 書けそうなことを、おおまかに思い出して、○で囲もう

家族	部活動	仲間	学校行事
地域・伝統	福祉体験	勤労	習い事・趣味
悩み・怪我・病气	その他（ ）		

○ 題材になりそうな体験や出来事を思い出し、○を付けよう

（ ）	あるものの存在が、自分にとってどんな意味があるかを考えるきっかけとなった出来事
（ ）	自分が新たな行動を起こすきっかけとなった体験
（ ）	嫌だったことが誇らしいことになったなど、感じ方が変化した体験

○ 題材になりそうな体験や出来事を思い出し、付箋紙ふせんしを使い図式化してみましょう。

・ 意味や感じ方が変化する前の自分、新たな行動を起こす前の自分

・ 変化のきっかけになった人物、出来事

変 容

人 物

出来事

・ 意味や感じ方が変化した後の自分、新たな行動を起こした後の自分

○では、図式化した自分の体験や出来事を、どのように表現すればよいか、参考作文を読んで、イメージしてみましょう。



相手の立場に立つということ

西尾市立鶴城中学校一年

稲垣 怜

工夫された表現

①「おまえん家、変わってるよね。」
書き出しの工夫

小学校のとき、遊びに来る友達からよく言われた言葉だった。僕も小学六年生にもなると、他の家族とは違うことに気づいた。

僕の家族は七人。父、母、弟、父方の祖母、母方の祖父母の七人だ。

確かに周りの友達を見ても、父方母方、両方の祖父母と一緒に暮らし

問いかけることで効果的に表現

ている家族は誰もいない。なぜ、こんな変わった家族になったのか。

以前、父から聞いたことがある。ハオのときに祖父が亡くなり、それから祖母は父を育てるため、自宅で華道教室、パン教室を開き、父が

寂しい思いをしないように頑張ったそうだった。そんな祖母の姿を見て父は、大人になったら楽をさせてあげようと思ったそうだった。母と結婚す

るとき、父は母方の祖父母のことも心配になった。老後は誰が面倒を見るのだろう。そこで父は、家を建てる機会に、みんなで住むことを

提案したのだ。母や母方の祖父母たちは、例のない話に戸惑ったが、父方の祖母の、

「その家がよかったら、それでいいんじゃない。」

という一言で決心したそうだった。その頃、僕はまだ一才にもなっていなかったが、その様子がよく分かる。今でも、最年長の父方の祖母は家族のよい相談役だからだ。母が子育ての相談をしたり、母方の祖母が困りごとを相談したりしているのをよく見る。確かに変わった家族だけれど、僕はそんな家族が大好きだ。

② 中学生になって間もないある日、何気なく母に言った。

「うちの家族って変わっているけど、みんな気が合ってよかったよね。」

母は僕の向かい側にゆっくりと座り、
具体的な描写

「怜は気の合う人たちが集まって、ラッキーだったと思う。」

と聞いた。

「そりゃそうじゃん。家族の仲が悪い家だってあるんだよ。」

と、僕が答えると母は、

「怜は、この家族に生まれて良かった。」

予想外の母親の様子に驚く作者

と聞いた。僕は、ほんの軽い気持ちで言ったのに、母の顔が真剣だったので戸惑った。

「うん。」

具体的な描写

僕の言葉に、母は安心したような顔をした。それから、僕が生まれたときに、父と母が決めた家族のルールを話してくれた。

③ 平成十七年五月九日、僕は生まれた。母は腎臓が悪く、妊娠中に母の病気が悪化したら僕を諦めるように、医師から言われていたらしい。

父や母、祖父母たちは祈るように一日一日僕の誕生を待った。妊娠八か月目、医師から、

「お腹の赤ちゃん、一七〇〇グラムになりましたよ。」

と言われたときは、ほっとして涙があふれたそうだった。これでもし私に何かあって外に出されても、この子は生きられる、そう思ったからだ。母は僕に、

「お母さんのお腹の中って、本当は安心する場所なんだけど、怜にとってはどきどきする不安なところだったよね。」

と、悲しそうに言った。僕は慌てて、

「そんなの赤ちゃんだし分からんだら。」

具体的な描写

と、笑ってみせたが、僕は待望の赤ちゃんだったということが分かった。僕が生まれたのは夜中だったけれど、父だけでなく祖父母たちも

病院に駆けつけたそう。僕が生まれた直後のビデオの中で、祖母が、「初めまして。君もがんばったよね。初めまして。」

具体的な描写

と、ガラス越しの僕に、優しく話しかけていた。祖母の声は涙声だった。

④ 僕が生まれた翌日、病室で父と母は僕をどのように育てようか真剣に話し合ったそう。まだ生まれて間もない僕を前にして。子どもは

例置法を使い、効果的に表現

育つ環境を選べない。だから、よい環境の中で育てたい。子どもの育

言葉を取り返し、印象的に表現

つよい環境とはどんなものなのか。ときどき、僕の小さな小さな手を

握りながら考えたそう。そして、人がいけば大切な環境であるこ

体言止めを効果的に使用

と。家族が仲よく僕が安心して過ごせる環境にしようと決めたそう。母が僕に言った。

「うちの家族が仲がいいのは、気の合う人が偶然集まったからじゃないんだよ。それぞれの立場に立って相手を理解しようとしているからなんだよ。」

心の動きの表現

比喩を使い、効果的に表現

なぜか僕は涙が止まらなかった。目の奥から、湧き水のように涙があふれた。

「家族の中でみんなそれぞれ、いろいろな立場があるよね。怜だったら孫だったり子どもだったり、お兄ちゃんだったり。例えば、お兄ちゃんの立場があれば反対側に弟という立場があるでしょ。怜がお兄ちゃんの立場だけで、奏が弟の立場だけで言い合ったら、歩み寄れないよね。」

素直な自分の気持ちを表す表現

そう母が続けた。そして、「怜は、えばらずに奏を大切にしてくれるから、感謝しとるよ。」と、僕をほめてくれた。そんなことはない。友達には言えないようなひどいことを、ついつい弟には言ってしまうことがある。

弟との関わり方を振り返る作者

「いや、奏に結構ひどいこと言うし。」

と、僕が言うと母は、

「それが家族なんだよ。わがまま言ったり、かつこ悪い姿を見せたり、ぶつかったり。でも、最後は相手を思いやる。」

と言った。僕が、

「確かに。母さんも保育士とは思えんくらいひどいことを、僕に言うもんね。」

親しみを込めて笑う作者

と、にやっと笑って言うと、母は、

「怜も保育園の子みたいにかわいいときはかりじゃないもんね。」と、言い返してきた。そして、

「いかんいかん。最後は相手の立場に立たんと。」

と、母が笑った。

⑤ 僕には大好きな家族の光景がある。それは、リビングの片隅にある勉強机から見渡す光景だ。ソファーでくつろぎながらテレビを見て

る父と弟。その向こうのダイニングでは別のテレビを見ている祖父の横で、祖母たちが話をしている。対面キッチンで、夕食の片づけをし

以前との変化を表す表現

ながら、ときどき祖母たちの会話に入る母。今まで何気なく見ていた

あたりまえの光景だ。でもそれは、僕のことを大切に思ってくれる家

比喩を使った効果的な表現

族の姿だったのだ。そんな気持ちで眺めていると、ふわふわの毛布に包まれて

家族とのつながりを表す表現

いるような温かくてやわらかな気持ちになる。そして不思議と強い力が湧いてくるのだ。

体言止めを使い、効果的に表現

⑥ 相手の立場に立つということ。家族が僕に教えてくれたこと。僕は

今まで出会った人たち、これから出会う人たちを大切に、温かいつながりを広げていきたい。お互いを思いやる環境が、どんなに温かく、どんなに心を強くするかを僕は知っているから。

例置法を使い、効果的に表現

『みかわの子』第58号

※下のQRコードを読み取ると、以前に掲載された作文を読むことができます。



■ 主題文を書く

「主題」とは、「読み手に伝えたい、変化した気持ちや考え」のことです。どんな「題材」を取り上げて、どんな「主題」を書くか、はっきりさせましょう。この題材と主題を一続きの文にしたものが「主題文」です。主題文を書くと、書きたいことがはっきりします。

(一) 「相手の立場に立つということ」の主題文の例を読もう

題材	出来事・場面
出来事・場面	以前から変わった家族構成であると思っていたが、ある日母親から自分が生まれたときの話を聞き、家族についての話をした。
主題	変化した気持ち・考え
変化した気持ち・考え	家族の仲がよいのは、それぞれが相手の立場に立って、理解しようとしているからだを知り、互いに思いやる環境が大切だということがわかった。

【主題文】

変わった家族構成であることについて、母親と話をすることで、家族の仲がよいのは、それぞれが相手の立場に立って、理解しようとしているからだを知り、互いに思いやる環境が大切だということがわかった。

(二) 19 ページで図式化した題材をもとに、主題文を書く

題材	出来事・場面
出来事・場面	
主題	変化した気持ち・考え
変化した気持ち・考え	

【主題文】

■ 構想表を書く

主題文が書けたら、構想表を作りましょう。どの出来事や場面を取り上げるのか、どのような順序で書くのか、何を詳しく書くのかなどを書き込みましょう。

○ 「相手の立場に立つということ」の構想表を読もう

主題文

書きたい事柄とその順序

変わった家族構成であることについて、母親と話をすることで、家族の仲がよいのは、それぞれが相手の立場に立って、理解しようとしているからだを知り、互いに思いやる環境が大切だということがわかった。		
はじめ	なか	おわり
① 変わった家族構成への気づき 「おまえん家、変わってるよね。」 - 僕の家族の構成や様子を紹介。	② 母親との話のきっかけ - 家族のことについて、母に聞いてみる僕。 - 家族のことを話し出したときの母の顔。 ③ 僕が生まれたときのこと - 僕が生まれたときの話を聞いたことを思い出す。 - 僕が生まれたときの祖母の会話と様子。 ④ 家族の仲がよい理由 - 僕が生まれたときに真剣に話す父と母。 - 家族が仲のよい理由を話す母。 - 母の話を聞き、素直な気持ちがあふれる。 - 弟について話す母と僕。 ⑤ 大好きな家族の光景 - リビングの片隅にある机から見渡す家族の様子。 - ふわふわの毛布に包まれているように温かく、やわらかな気持ち。 - 家族から強い力をもらっている。	⑥ 家族が僕に教えてくれたこと - お互いを思いやる環境が、温かく、強い気持ちにさせてくれる。

○構想のヒント

どのような構成にすると、自分の思いをより効果的に表現できるでしょうか。構成の仕方をいくつか見てみましょう。

・時系列にそって書く場合

(例) 状況やそのときの心情がわかる書き方

はじめ	なか	おわり
①母の事故と混乱する私	②事故によって生活が変わったこと ③事故の怖さと健康であることへの感謝 ④友達の悩みを聞いて感じたこと ⑤母の仕事とその存在の大きさ	⑥母への思い

(注) 番号は、書き進める順序

・時系列を変えて書く場合

(例) 現在の様子から入り、その状況に興味をかきたてる書き方

はじめ	なか	おわり
①弟と将棋をし、負ける僕	②祖父と将棋をした思い出 ③将棋に引き込まれていく弟 ④弟の決意 ⑤祖父の死	⑥弟と将棋をする僕。弟によって受け継がれた祖父の思い。

現在 ← 過去 ← 現在

・その他、物語の「設定・展開・山場・結末」と同じ四場面構成の方法もあります。

○構成の仕方によって、読み手の印象がどのように変わるか確かめてみましょう。

(一) 「相手の立場に立つということ」は22ページの構想表の順序で書かれています。しかし、この構成を変えてみると、読み手の印象はどのように変わるでしょうか。

例えば、次の(ア)(イ)(ウ)の場面を「はじめ」にした場合、それぞれの場面は、どのような順番にするとよいでしょうか。また、その場合、読み手はそれぞれどのような印象を受けるでしょうか。

(ア) ある日、僕が家族のことで何気なく言ったことから

(②場面から)

(イ) 僕が生まれたときの様子や会話から

(③場面から)

(ウ) 僕が今、見ている大好きな家族の光景から

(⑤場面から)

○場面を並べる順序によって、読み手の受ける印象が変わることがわかりましたか。次のページで構想表を書くとき、エピソードの順序にもこだわってみましょう。



(二) 23 ページの「構想のヒント」を参考に、構想を立てよう

主題文（自分自身に起こった変化のまとめ）		
※22ページに書いた主題文をここに書く。		
な	か	はじめ
		※付箋紙を貼るのに適した大きさになっています。
書きたい事柄とその順序		書かれていたよい内容
※時系列で書く場合 はじめ：出来事の発端 なか：その後の様子 おわり：変化した自分の気持ち ※時系列を変えて書く場合 はじめ：今現在の様子や自分 なか：今の自分になるまでの出来事 おわり：今の自分の気持ち (3) 詳しく書くことを決める ・付箋紙の近くに、その場面での会話、人物の行動、表情、周りの情景をできるだけ詳しく思い出して書く。		○構想表を書く順序 (1) 出来事・場面を整理する ・付箋紙を用いて、出来事や場面を項目ごとに書き出す（後で整理するので、重ねて貼ってもかまいません）。 ・全ての場面がそろったら、時間の流れにそって並べ替える。 ・詳しく書きたい場面を決める。 ・書かなくてもよさそうな事柄の付箋紙を外す。 (2) 書く順序を決める ・貼られている付箋紙に、時間の流れにそって番号をふる（時間の流れを確認しながら書き進められます）。 ・書いていく順番に付箋紙を貼り替える（主題文の内容がより効果的に伝わるように順番を考えてみよう）。 ○登場する人物の行動や表情、会話と、それらから感じられたり、考えられたりすること。 ○自分自身に起こった変化のクライマックスの様子。

※下のQRコードを読み取ると、ワークシートを入手できます。



おわり

四 作文を書こう

○ 書き出しの工夫をしよう

次に挙げたのは『みかわの子』の作品の書き出し部分です。参考にしましょう。

気持ちから

ああ、やる気が出ないなあ。

夏休みのある日、宿題をやらうと机に向かったが、なんだか気がらない。

擬音語から

ガラガラガラ。

「こんにちは。」

引き戸を思いっきり開けて叫ぶと、

会話から

「でっ、ではっ、放流しまあす。」
責任者の方に促され、とまどいながら、

話題の中心人物から

私には九十三歳になる大きいばあちゃんがあります。大きいばあちゃんは、とても元気で、毎日のように畑仕事を頑張っていました。

五 よりよい作品にしよう

—— 推敲 ——

(一) よりよい作品にするために

よりよい作品にするためには、推敲が必要です。巻頭の「推敲の仕方とポイント」に従って、自分の作品を書き直しましょう。また、題名や名前を書く位置、記号の書き方については、巻頭の「原稿用紙の使い方」を参考にしましょう。

(二) 描写の見直し

次の描写を比べてみましょう。描写の仕方によって読み手の受ける印象がどのように変わるか考えてみましょう。事実を客観的に、あるいは心情を主観的に、あるいは視点から見えたものを順番に、あなたの作文にふさわしいのは、どのような描写でしょうか。

(ア) 今まさに、マラソン大会が始まろうとしていた。

(イ) 僕は一步踏みだし、ゆっくりとマラソン大会のスタートラインに立った。さっきまでの耳ざわりだった雑音はもう聞こえなかった。

(ウ) 時計が九時四十五分を示した。スターターがピストルを持つ右手を静かに空に向けて伸ばしていく。空には雲一つなかった。

六 友達と作品を読み合おう

原稿を友達と交換して読み合ってみましょう。お互いのすばらしい点や、さらによくするための改善点を教え合いましょう。

○ 今後どのように生活や行動をしていくか。
○ 今の自分の気持ちや考え。

付録 記述問題に挑戦しよう

問一 次は、山川さんが書いた「意見文の下書き」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

一 本を読んだとき、印象的な言葉に出会ったり、筆者の考えに共感したりすることがある。しかし、読み終わったときには覚えていても、少し時間がたつと忘れてしまい、本のどこに書いてあったかも分からないという経験をしたことはないだろうか。

二 私は、読んだ本について記録を残すことが大事だと考える。なぜなら、本を読んだ記録を残すことは大切なことだからだ。

三 具体的には、本のページの角を折ったり、しおりを挟んだり、気になる箇所には線を引いたりするなど、本に印を付けて読む方法がある。また、ページ数をノートにメモしながら読むのもよい。メモをするとき、書名など本の基本的な情報や、気になる箇所を書き写しておけば、それがそのまま自分の読書記録になる。そうすれば、自分がその本を読んだときに考えたことをいつでも振り返ることができる。

④ や著者名、出版年

四 せっかく読書をするのであれば、

⑤ してみてもいいだろうか。ぜひ一度、実践してほしい。

H27全国学力・学習状況調査 一部改変

(一) 山川さんは、「意見文の下書き」を読んだ友達から、——線部「なぜなら、本を読んだ記録を残すことは大切なことだからだ。」の部分の不適切であるという指摘を受け、書き直しました。書き直した文として最も適切なものを、次のアからエまでのの中から一つ選びなさい。

ア なぜなら、記録を残すことで、筆者の考えに共感することができるからだ。

イ なぜなら、記録を残すことで、読んだ内容が全て理解できるからだ。

ウ なぜなら、記録を残すことで、読んだ内容をいつでも振り返ることができるからだ。

エ なぜなら、記録を残すことで、メモを取る習慣が身につくからだ。

(二) 山川さんは、「意見文の下書き」を読み直して、⑥と⑦の二か所を直しました。その意図として最も適切なものを、次のアからエまでのの中からそれぞれ一つ選びなさい。

ア 難しい言葉を削ることで、読み手が一読して理解できるようにした。

イ 読み手に問いかける表現を取り入れて、共感を得ようとした。

ウ 重要な言葉を繰り返して、伝えたいことを強く印象付けようとした。

エ 例を増やすことで、あいまいな部分をより具体的にしようとした。

(三) 部分は山川さんの意見のまとめとなる部分です。

に入る文を山川さんの主張にふれながら、「読書記録」

という語句を使い、四十字以上五十文字以下で書きなさい。

$(\rightarrow)$
$$\left(\begin{array}{c} \longrightarrow \\ \longrightarrow \end{array} \right)$$

A

$$\left(\begin{array}{c} \longrightarrow \\ \longrightarrow \\ \longrightarrow \end{array} \right)$$
[illegible]

解答・解説

(一)
ウ

解説

元の文では前文と同じ内容が繰り返されている。山川さんは記録をすることで、印象的な言葉や共感した考えを忘れず、いつでも振り返ることができると考えているため、ウとなる。

$$\left(\begin{array}{c} \longrightarrow \\ \longrightarrow \end{array} \right)$$

Ⓐ
Ⅰ

イ

解説

①「書名」だけでは他の情報が伝わりにくいため、複数の例をあげるように。

③ 断定せずに、「どうだろうか。」という呼びかけにすること
で読者に問いかけるかたちになるため、共感を得られる。

$$\left(\begin{array}{c} \text{---} \bullet \\ \text{---} \bullet \\ \text{---} \bullet \end{array} \right)$$

(例)

「気になる箇所を書き写して、読書記録にしてみると、考えたことをいつでも振り返ることができる」

「本に線を引いたり、印を付けたりして、読書記録を残しておくとか、印象的な言葉や筆者の考えを覚えておける」

解説

山川さんの主張は、第三段落に書かれている。第三段落に書かれている具体的な行動をあげながら、主張が明確になるように要約していきたい。

① 具体的な行動

○読書記録を作る

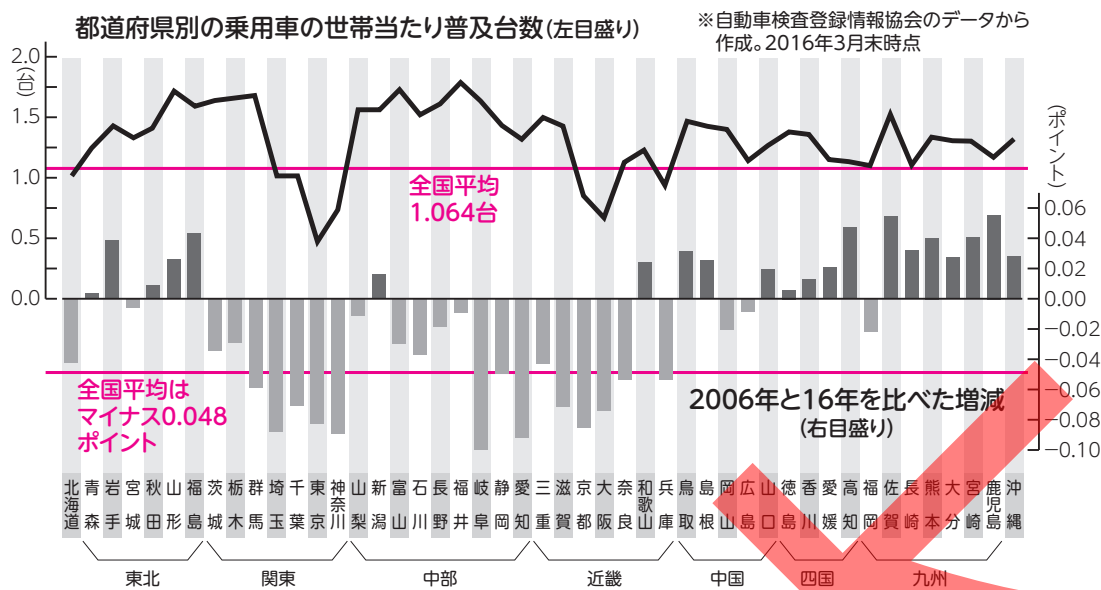
- ・ 本ページの角を折る
- ・ しおりを挟む
- ・ 気になる箇所を線を引く
- ・ 本に印を付けて読む
- ・ 書名・著者名・出版年などの基本情報を書き写す

②主張

○本を読んだときに考えたことをいつでも振り返ることができる

①と②を組み合わせると、山川さんの意見のまとめが完成する。





【A】都道府県別の乗用車の世帯当たり普及台数

問二 次のグラフ【A】は、「都道府県別の乗用車の世帯当たり普及台数」と「二〇〇六年と一六年を比べた増減」を表したグラフです。また、【B】【C】は、大都市と地方都市の駅の時刻表です。文章【D】は、それらをもとにして中学生の北山さんが「車離れ」をテーマに書いた下書きです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【B】大都市圏にある駅の時刻表

時	平日
4	49
5	17 35 54
6	07 14 22 28 35 41 46 52 56
7	01 07 12 16 21 26 29 32 35 39 42 45 48 51 54 57
8	00 03 06 08 11 14 17 20 23 26 29 32 34 37 40 43 46 49 52 55 58
9	01 04 07 10 13 16 19 22 24 28 31 34 37 40 43 47 51 54 57
10	01 05 09 14 17 21 24 27 31 35 40 44 49 53 58
11	02 06 11 15 20 24 28 33 37 41 46 50 54 59
12	03 07 12 16 20 25 29 33 38 42 46 51 55 59
13	04 08 12 17 21 25 30 34 38 43 47 51 56
14	00 04 09 13 17 22 26 30 35 39 43 48 52 56
15	01 05 09 14 18 22 27 31 35 40 44 48 53 57
16	02 06 10 15 19 23 27 32 36 40 44 48 52 56 59
17	02 06 09 13 16 19 23 27 31 35 38 41 44 48 51 54 57
18	01 04 07 10 14 17 20 24 27 31 35 38 41 44 48 51 54 57
19	01 04 07 10 14 17 20 23 27 30 34 37 41 44 48 51 54 57
20	01 04 07 10 14 17 20 23 27 30 33 37 40 44 47 51 54 57
21	01 04 07 11 14 17 20 23 27 30 33 37 40 44 47 50 54 57
22	01 04 08 12 16 20 24 28 31 35 38 42 46 50 54 59
23	03 07 11 14 19 24 27 31 35 39 42 47 51 55
24	02 07 15 24 28 33 37 42 51 55
25	03

【C】地方都市にある駅の時刻表

時	平日
6	46
7	
8	31
9	
10	34
11	34
12	29
13	37
14	37
15	
16	31
17	
18	53
19	
20	42
21	

【D】北山さんの文章の下書き

二〇一六年三月末の一世帯当たりの乗用車の普及率は、一・〇六四台で、〇六年に一・一一二台だったことと比べるとわずかに減っていることがわかる。特に東京や大阪などの大都市では、「車離れ」が進んでいることが見て取れる。〇六年と一六年を比べた際の増減を都道府県ごとにとみると、全国平均が〇・〇四八ポイントの減少なのに対し、三大都市圏の減り幅は大きいところで二倍程度もある。

一方、東北、四国、九州などの地方都市は「^②」。このことから、地方都市においては、大都市とは違い、車に対するニーズは高まっていると考えられる。

都市部や若者の間で進んでいると言われる「車離れ」。自動運転や車を共有するシェアリングが普及するとされる未来の社会では、私たちの車との付き合い方は大きく変わっていくだろう。

(一) 北山さんは、読み手にとつてよりわかりやすい文章にするために、【D】の文章の①のところに言葉を書き入れて直すことにしました。書き加える言葉として適切なものを、次のアからエまでのの中から一つ選びなさい。

- ア 低い普及率であるうえに減り幅が大きいことから、
イ 低い普及率であるがゆえに減り幅が大きくなっていないことから、
ウ 普及率は高くはないにもかかわらず減り幅は小さいことから、
エ 普及率は決して低くないが減り幅が大きいことから、

(二) ②に当てはまる文章を、次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。

条件1 グラフ【A】また、表【B】【C】を比較して読み取れる内容に触れること。

条件2 「公共交通機関」「普及率」という言葉を使うこと。

解答欄

(一)

(二)

解答・解説

(一) ア

解説

東京・大阪の普及率に注目すると、全国平均に比べ低い数字となっていることがわかる。また、〇六年と一六年を比べた増減についても、全国平均と比べると減り幅が非常に大きくなっていることがわかる。

(二) (例)

「大都市圏と比べて公共交通機関の利便性が低いため、車の普及率が上昇している」

解説

公共交通機関である電車の時刻表【B】【C】の資料からは、大都市と地方での電車の本数に大きな違いがあり、地方がいかに利便性が低いかを見てとることができる。【A】のグラフからは、東北、四国、九州の乗用車の普及率が軒並み上がっていることがわかる。

- ・公共交通機関の利便性の違いにふれてあること
- ・東北、四国、九州における乗用車の普及率の上昇についてふれてあること

以上二点が採点のポイントとなる。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

森にりっばな牡鹿^{おしか}がいた。

名前をホーイチといった。

みんなは牡鹿に悩みをきいてもらっていた。

ある日、牡鹿がお昼のパンを食べようとしていたときのこと、ヤマアラシの若者がよろよろと入ってきた。

「ホーイチさん、僕はもうだめです」

いつもつんつんとがって、弱みを見せないはずのヤマアラシだった。

「いったいどうしたっていうんですか」

牡鹿はヤマアラシをいすにすわらせた。

「ホーイチさん。ほくのガールフレンド、やさしいジレンマのことは知ってますよね」

牡鹿はうなずいた。ジレンマというのはあまり評判のよくない、とげとげしい感じのヤマアラシの娘だった。

「あの娘にきらいだと、はつきりいわれてしまったんです」

テーブルの上につつぶして、ヤマアラシは泣きくずれた。

「もう生きていく意味をなくしました」

牡鹿は見えていられなかった。

「そんな。ジレンマだって、本気でいったんじゃないかもしれませんよ」

「そうでしょうか」

ヤマアラシはテーブルから、涙にぬれた顔をあげた。

「そうだ。そうかもしれない。わざとほくをきらったふりをしただけかもしれない」

その頭のトゲにはテーブルにあったパンがささっていた。

「あまり近寄っては自分のトゲがほくを傷つける。それをおそれたのかもしれない」よろよろといすから立ちあがったおしりには、クッションがささっていた。

「ああ、そんなにもほくは愛されていたのに」かべにぶつかったひょうしにカレンダーが背中につっかかり、つかまった棚ではかざってあったヌイグルミがくつついた。

「それなのに、気づかないでいるなんて」出窓にもたれると、ポーズをとった。

「ぼくって、とんだおばかさんだ」

ほんとにおばかさんだと牡鹿は思った。窓に干してあったぞうきんやらハンガーやらが、背中からまつているのにも気づかないでいるなんて。「なんだか生きる意味を取りもどせた気がします。ホーイチさん、ありがとうございます」

ヤマアラシは、パンのついた頭をなんども下げて帰っていった。クッションとカレンダーとヌイグルミとハンガーとぞうきんがくつついて、もとがいったいなんなのかわからなくなったヤマアラシの後ろすがたを見送りながら、牡鹿は考えていた。

ヤマアラシのいう「生きる意味」っていったいなんだろう。

ほかのことはまったく気づかなくなるほどに、大切なものなのだろうか。牡鹿はわからないまま、また新しいパンをテーブルにならべはじめた。

安東みきえ「頭のうちどころが悪かった熊の話」(理論社)

※牡鹿：オスのシカのこと。

※ヤマアラシ：体に鋭いトゲをもつねずみの仲間。

(一) この文章には「ヤマアラシ」が登場します。ヤマアラシの特徴と行動から、ヤマアラシのどんな様子が分かりますか。次の条件1から条件2にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり、行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 ヤマアラシの特徴と行動についてふれていること。

条件2 引用する部分は、かぎかっこ「」でくくること。五十文字以上七十文字以下で書くこと。

(二) この文章の続きをあなたが書くとした場合、新たにどんな動物を登場させ、どんな内容を書きますか。次の条件1から条件4にしたがって書きなさい。また、「(動物名)」を登場させ(本文)「内容を書く。」というかたちに従って書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり、行間に書き加えたりしてもかまいません。

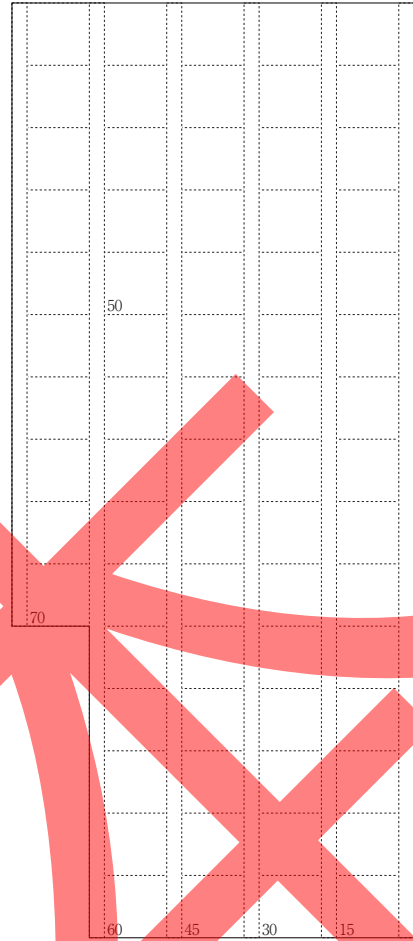
条件1 登場させる動物の特徴を書くこと。

条件2 登場させる意図を明確にすること。

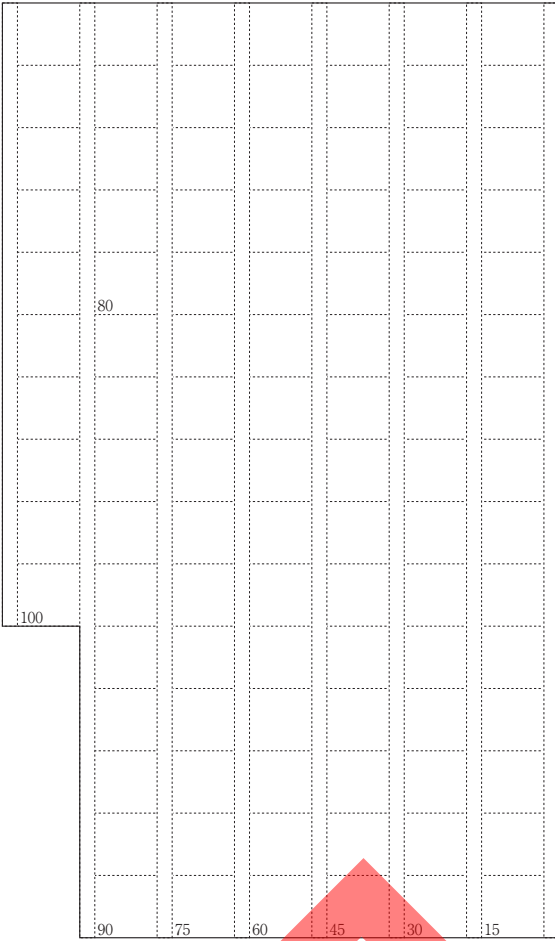
条件3 本文を引用して書くこと。

条件4 引用する部分は、かぎかっこ「」でくくること。八十文字以上百字以下で書くこと。

(一)



(二)



(一)

(例)

条件 1

「つんつんとがって」いるヤマアラシが「トゲ」に物がくっついていないことに気づかないという行動から、周りが全く見えていないほど悩んでいる様子が分かる。

解説

「ヤマアラシ」の特徴である「トゲ」と、「ヤマアラシ」が取った行動を分析し、普段であれば気づくであろう状態（体中に物が刺さっている）にあっても気づくことができなかった様子を文章にまとめた。

(二)

(例)

条件 1

条件 3

アライグマを登場させ、特徴である洗う動作と「新しいパンをテーブルにならべはじめた」ことを使い、アライグマにパンを洗わせて、その謎の行動から牡鹿が「生きる意味」の謎を考えていくような内容を書く。

条件 1

(例)

自由な生き方をする猫を登場させ、牡鹿と一緒に新しいパンをならべながら、猫が自由な発想をもつことや広い視野で考えることの大切さを伝え、牡鹿が「生きる意味」について考え直すような内容を書く。

条件 2

(例)

群れで生活する特徴のある狼を登場させる。狼が群れの仲間の大切さを牡鹿に語ることで、牡鹿はヤマアラシのことを思い出し、大切な人と生きることが「生きる意味」なのかもしれないと考え始める内容を書く。

条件 1

条件 2

(例)

群れで生活する特徴のある狼を登場させる。狼が群れの仲間の大切さを牡鹿に語ることで、牡鹿はヤマアラシのことを思い出し、大切な人と生きることが「生きる意味」なのかもしれないと考え始める内容を書く。

(例)

群れで生活する特徴のある狼を登場させる。狼が群れの仲間の大切さを牡鹿に語ることで、牡鹿はヤマアラシのことを思い出し、大切な人と生きることが「生きる意味」なのかもしれないと考え始める内容を書く。

条件 3

解説

ヤマアラシと牡鹿のやり取りの終わりには、「生きる意味」という言葉が登場し、牡鹿は「わからない」としていることから、「生きる意味」という謎を考えていく内容であることが望ましい。

令和7年度版 **表現の友** 1年

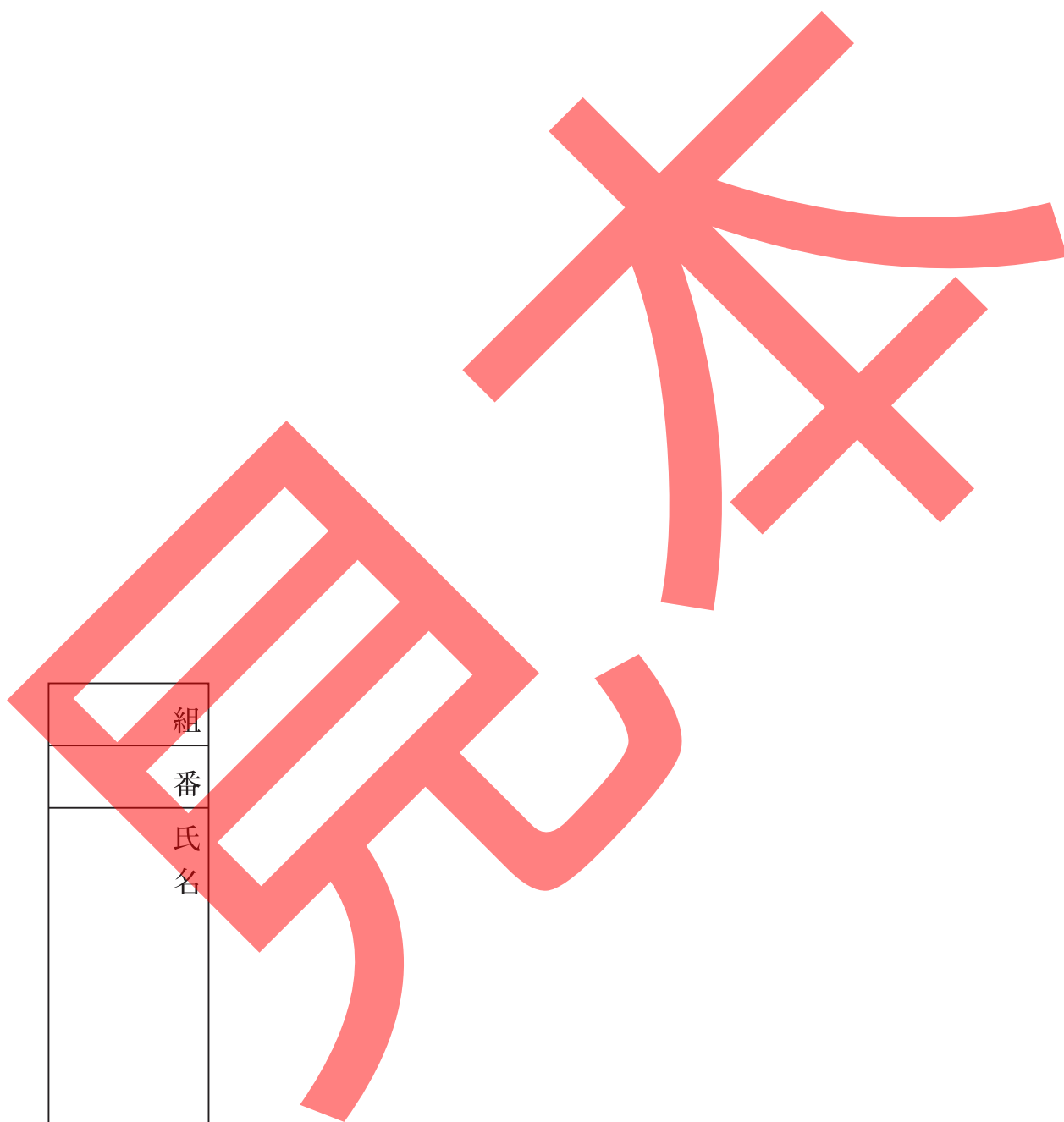
編集 「表現の友」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話〔0564〕51-4819

印刷 株式会社 岡田印刷

表紙 豊川 中嶋 桂 先生
さし絵 安城 齋藤みゆき先生
豊橋 田中 千晶先生

※無断で複写・複製することを禁じます。



組
番
氏名